

2023年度 市川市立稲越小学校経営方針

1 学校教育目標

命 はなまる！

かしこく，誇らしく，ねばり強く
～家庭、地域と共にある学校を目指して～

2 めざす子ども像

- (1) 考え、判断する子ども 知（頭）
- (2) 自分も相手も大切にできる子ども 徳（心）
- (3) 体をきたえ、ねばり強く取り組む子ども 体（体）
- (4) 地域や社会とのつながりに意欲的な子ども

3 めざす学校像

- (1) 明るくあいさつと笑顔あふれる元気な学校
- (2) 基礎・基本を確実に身につけられる授業の充実した学校
- (3) 地域とともに歩む学校
- (4) 教職員がライフワークバランスを考えながら一致団結して，組織的に教育活動を展開できる学校

4 めざす教職員像

- (1) 子どもと関わるのが好きで、子どもに深い愛情を持つ教職員
- (2) 絶えず自己研鑽に努め、専門性を高める教職員
- (3) 学校運営への高い参画意識を持ち、意欲的に実践する教職員
- (4) 全体の奉仕者としての使命と責任、意欲と情熱を持ち続ける教職員

2023年度稲越小学校経営の重点

市川市立稲越小学校長 吉田 直美

1 経営の基本的な考え方

学校の使命は、子どもたちの「命」を守り、子どもたちが学ぶ楽しさ・分かる楽しさを実感させることである。安全・安心が保障された環境の中で、家庭・地域の連携の下、子ども一人一人が主体的に、そして人と関わり合いながら学習に取り組み、笑顔いっぱいの学校にしたい。

2 経営の方針

「命を大切にし、一人一人の個性が輝き、力強く生きる力を育む教育」を目指し、

- (1) 子どもの命を最優先に考え、安全安心な学校を目指す。
- (2) 一人一人の児童理解を深め、個々のニーズに応じた支援に努める。
- (3) グローバル社会で、自分らしくのびのびと活躍できる子どもを育てる。
- (4) 子どもの健全な成長を願い、協働の精神を大切に「チーム稲越」で取り組む。
- (5) 日々の授業を大切に、「決めた」「わかった」「できた」という喜びと感動を味わわせる。

3 学校教育目標の具現化に向けた手立てと本年度の重点

「命」の大切さに気づかせ、命あることに感謝するとともに、自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てるために、人や社会、自然環境とのつながりを大切に保護者、地域とともにある学校づくりを目指す。

「かしこく、誇らしく、ねばり強く」

- かしこく ≪ 考え、判断する子ども ≫ (知・・・頭)
 - ・学ぶ楽しさがわかり、自己決定ができる。
 - ・基礎的・基本的知識理解のもと、進んで考えたり行動したりする。
 - 誇らしく ≪ 自分も相手も大切にできる子ども ≫ (徳・・・心)
 - ・相手の気持ちを理解しようとし、相手を思いやった行動ができる。
 - ・子ども同士、子どもと教職員の温かなつながりをもつ。
 - ・ぼかぼかグループ(異年齢集団)での活動を通して、下級生の手本となる言動とそれに憧れる気持ちの相互関係を大切にする。
 - ねばり強く ≪ 体をきたえ、ねばり強く取り組む子ども ≫ (体・・・体)
 - ・健康第一とし、自分でめあてを持って継続的に体をきたえる。
 - ・自分がやろうと決めたことを、がんばり続ける力をもつ。
 - ≪ 地域や社会とのつながりに意欲的な子ども ≫
 - ・子ども発信の活動や行事を作り上げる。
- (1) 確かな学力づくりを目指して
- ・「生涯学習の基礎基本となる事柄の定着」、「学ぶ喜びの実感」と「創造性」を培う。
 - ① ・学びの入り口に立つ子どもを「疑問解決探偵団」とし、好奇心を継続していく。
 - ② 「生徒指導の機能を生かした」授業づくりと学習環境づくりに努める。
→「学ぶ喜び」「人と学びあうよさ」の実感
 - ③ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境とする。

- ④ スモールステップで評価し、個を伸ばす形成的な評価を心がける。
- ⑤ 読み書き計算を中心に基礎的、基本的な内容の確実な定着を図る。(日々の授業の充実や寺小屋の取り組み等)児童の実態を把握し、目標やねらいを明確にして、少人数学習(ティームティーチングや 習熟度別学習など)の学習形態を効果的に取り入れる。
- ⑥ 体験的な学習とICT機器の積極的な活用を図り、効果的なハイブリッド学習を進める。(地域人材・ICT支援員の効果的な活用)
- ⑦ 一部教科担任制の実施。

(2) 豊かな心づくりを目指して

- ・ 「命 はなまる！」を合言葉とし、創意と工夫のある学級活動や子ども発信の各種集会活動及び学校行事などを実施する。児童一人一人の自己実現を図る場を確保し、心のつながりを尊重できる学級・学年づくりを行う。
 - ① 気持ちの良いあいさつ「明るく・笑顔で・自分から」の充実を図る。
 <代表委員やPTAとの連携>
 - ② 人権教育に努め、人の気持ちをわかろうとする、思いやりのある行動がとれる児童の育成を図る。
 - ③ 集団生活の基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ④ いじめの根絶(しない・させない・見逃さない)の徹底。いじめアンケートの効果的な活用。<代表委員会やPTAとの連携>
 - ⑤ 約束や時間を守ろうとする意識を高める。
 - ⑥ 「ぼかぼかグループ」(異年齢集団)の活動により、一人一人を大切にする集団づくりと相互の信頼関係を構築する。
 - ⑦ 児童と教職員がいっしょにきれいな学校環境を作りあげる。(清掃の行き届いた美しい学校)
 - ⑧ 命を育てる活動や奉仕活動等を通して、自然や動植物に親しむ心を育てる。
 - ⑥ 家庭や地域の方々との連携のもと、道徳教育を推進する。
 (東国分中ブロック共通課題)
 - ⑨ 福祉活動への参加等を通して、信頼感や尊敬、慈しみの気持ちなど豊かな心情を育てる(東国分中ブロック共通課題)

(3) 健やかな体づくりを目指して

- ・ ヘルシースクールプランを通して、包括的な健康教育を推進する。
 - ① 学校保健委員会等の組織を生かし、家庭と連携しながら生活リズムや食生活等の啓発・改善を図る。
 - *健康三原則「バランスの取れた栄養・じゅうぶんな睡眠と休養・適度な運動」を推進する。
 - *「早ね・早起き・朝ごはん+運動」
 - ② 命の尊さを重んじ、健康安全教育を推進する。
 - ③ 安全・安心でおいしい学校給食を実施する。
 - *食材の衛生安全管理を徹底する。
 - *全教職員の共通理解による校内アレルギー体制の徹底を図る。
 - ④ 「食育」を推進し、マナーや自己管理能力を身に付け、食に関する指導の充実を努める。
 - ⑤ 体力づくりと正課体育の充実を通して、体力向上を図る。(苦手項目克服の手立ても含めて)
 - ⑥ 新体力テストや健康診断の結果を生かし、健康の保持増進に取り組む。
 - ⑦ 体育施設・設備の整備と活用を図り、体育環境を積極的に構成する。
 - ⑧ 教材・教具の工夫や自己評価の工夫を通して楽しく体力を高められるようにする。

- ⑨ 業間休み等で、体育的活動を取り入れて、身体活動の工夫を図る。
 - ⑩ 机と椅子の高さ調整をし、正しい姿勢を保つことで心身の保持増進に努める。
- (4) 特別支援教育の推進を目指して
- ・すべての子どもたちが大切であることを基本とした、特別支援教育を推進する。
 - ① 市川スマイルプランの効果的活用を図る。
 - ② 誰でもわかりやすい教室環境や授業、ユニバーサルデザイン化を進める。
(東国分爽風学園共通項目)
 - ③ 専門機関との連携を図る。
- (5) 保護者・地域との連携、信頼される学校づくりを目指して
- ・「今日も稲越小学校に来てよかった。」と感じる学校づくりを推進する。
 - ① 来訪者や電話でのさわやかで温かい対応に努める。
 - ② 稲越小学校の教育活動の理解を図る地域への積極的な広報活動を行う。
 - ③ P T Aや地域との行事等を通して交流を深める。
 - ④ 学校運営協議会を中心に、家庭、自治会、関係機関等との連携を図る。
 - ⑤ 教職員も地域の諸行事に参加し、自治会等の方々とのコミュニケーションを深める。
 - ⑥ 須和田の丘支援学校小学部（稲越校舎）との連携・交流を深める。
(なかよし給食、合同避難訓練、交流及び共同学習等)
 - ⑦ 東国分爽風学園の学校や近隣の幼・保・小・中・高と交流する。
 - ⑧ 学校評価の実施・公表により、教育の共有化を図るとともに、望ましい学校改善に努める。
 - ⑧ モラールアップ委員会の活性化を図り、「自校から不祥事を絶対に出さない」学校づくりを行う。(ボトムアップの研修の実施)
- (6) 安全・安心な学校づくりを目指して
- ① 防犯・防災・交通安全等、安全教育に関する指導を計画的かつ充実させ危険予知・予防能力を育成し、事故防止に努める。
*危険箇所の把握と適切な対応(できる限り、その日のうちに対応)
 - ② 安全・安心の学校づくり(危機管理・連絡方法の充実)に積極的に取り組み、保護者・地域の見守りを充実させる。
*防犯、防災体制の整備改善と、小学校拠点校構想との連携強化。
- (7) ポストコロナの学校づくりを目指して
- ① 学校行事等の精選(実施内容の検討等を積極的に推進する。)
 - ② 危機に備える学校づくりを推進する。
 - ③ 学校の置かれている状況を踏まえた学校経営の推進。